

表 - 1 クマタカ保護方策検討のために必要な調査の構成と内容

調査項目		調査手法			調査課題 主な記録事項	調査期間・頻度 調査結果の活用
		現地		既存資料調査		
		踏査調査	定点調査			
生態調査	営巣地確認調査 (生息概況調査)				<p>営巣木の位置 / 標高 / 傾斜角 / 方位角 営巣木の樹種 / 樹高 / 巢高 / 胸高直径 / 架巣形態 古巣の位置・状態 求愛・誇示ディスプレイ 交尾行動 巣材運搬 警戒行動・範囲</p>	<p>定点は求愛期から造巣期(11～3月)が出現確認を行いやすく効果的。 踏査は求愛初期(11～12月の落葉期)および巣立ち前後(7～9月)に実施する。 営巣地点の確認及び「営巣中心域」の推定等に活用 営巣地登録箇所および潜在的営巣可能エリアに関しては、「生息概況調査」として、効率的に左記事項を確認するものとする。また、新たに営巣地が確認された際は、随時営巣地登録情報に加えるとともに、潜在的営巣可能エリアの適正を検証する。</p>
	繁殖状況調査				<p>繁殖経過(巣の直接観察) 【抱卵期】 抱卵(姿勢)の確認 【巢内育雛期】 孵化・成長状況 給餌物の内容 【巢外育雛期】 幼鳥の有無(繁殖成否) 繁殖関連情報(巣周辺の踏査) 給餌物の解体場所 採餌行動・場所 監視用とまり場所 防衛・威嚇行動・場所 巣立ち幼鳥移動範囲</p>	<p>直接観察は、抱卵期から巢内育雛期を経て巣立ち後の巢外育雛期に至るまでの期間(3～8月)、巣から500m程度離れた地上より行う。 踏査は巣立ち前後(7～9月)に実施する。 繁殖の成否及び「営巣中心域」の推定等に活用する。 巣への近接観察に際しては、繁殖妨害とならないように事前(造巣期以前)にブラインドを設置する等、慎重に行う必要がある。</p>
	行動圏調査				<p>定点位置 / 可視範囲 / 時間 出現時間 / 出現位置 / 個体数 個体の特徴 / 行動 / 高度 とまり場所・壻 採餌行動・場所 帆翔・旋回場所 主要飛行ルート</p>	<p>「繁殖期」から「非繁殖期」にかけての年間を通じて実施する。 月に1回程度で、必要に応じ繁殖期内に月2回実施する。 定点地点数は眺望地点における可視範囲の状況により決める。 「営巣中心域」及び「高利用域」の推定等に活用する。</p>
環境調査	自然環境調査				<p>営巣環境調査 巣の周囲20mの植生 (高木層 / 亜高木層 / 低木層 / 草本層等) 広域環境調査 巣から半径1.5km圏内の自然環境条件 (地形 / 植生 / 土地利用) 巣の周囲の500m圏内の営巣に適した林の分布状況</p>	<p>非繁殖期の影響が及ばない時期に実施 調査期間中に適宜実施</p>
	社会環境調査				<p>都市的土地利用状況 農 lands 的土地利用状況 林 lands 的土地利用状況 法的規制・開発計画等 営巣地への人の入り込み状況</p>	<p>調査期間中に適宜実施</p>